

福島県立医科大学 学術機関リポジトリ



Title	医療人育成・支援センター(論文・著書・発表等)
Author(s)	
Citation	福島県立医科大学業績集. 2: 480-487
Issue Date	2022-03-22
URL	http://ir.fmu.ac.jp/dspace/handle/123456789/1844
Rights	©2022 福島県立医科大学
DOI	
Text Version	publisher

This document is downloaded at: 2023-10-24T02:00:13Z

Goto A. Japan's Response to COVID-19 at the community level. Panel: Japan's Response to COVID-19 (Edwin O. Reischauer Institute of Japanese Studies. U.S.-Japan Relations Seminar Series); 20201014; Web(Cambridge, USA).

後藤あや. モニタリングレポート委員会による「賛否の分かれる公衆衛生対策に関するディベート」学童期の長期休校の是非. 第79回日本公衆衛生学会; 20201020-22; Web(京都).

医療人育成・支援センター

論 文

〔原 著〕

Ishida M, Ushioda S, Nagasawa Y, Komuro Y, Tang Z, Hu L, Tamura T, Sakatani K. Development of an IoT-based monitoring system for healthcare: A preliminary study. *Advances in Experimental Medicine and Biology*. 202001; 1232:291-297.

Ushioda S, Nagasawa Y, Isida M, Komuro Y, Tang Z, Hu L, Tamura T, Sakatani K. Development of a cuff-less blood pressure monitoring system and its application. *Advances in Experimental Medicine and Biology*. 202001; 1232:315-322.

Misaka S, Abe O, Ono T, Ono Y, Ogata H, Miura I, Shikama Y, Fromm MF, Yabe H, Shimomura K. Effects of single green tea ingestion on pharmacokinetics of nadolol in healthy volunteers. *British Journal of Clinical Pharmacology*. 202011; 86(11):2314-2318.

Stanyon M. As the profession soldiers on, all members hear the call to arms. *British Journal of General Practice*. 202004; 70(694):229.

Ramsay R, Stanyon M, Takahashi N. Social accountability across cultures, does the concept translate? An explorative discussion with primary care colleagues in Japan. *Education for Primary Care*. 202003; 31(2):66-70.

Ono Y, Goto A, Maejima Y, Maruyama I, Suzuki T, Shikama Y, Yoshida-Komiya H. Work-life conflict, gender-based discrimination, and their associations among professionals in a medical university and affiliated hospitals in Japan: A cross-sectional study. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202004; 66(1):25-36.

Kato K, Otoshi KI, Yabuki S, Otani K, Nikaido T, Watanabe K, Kobayashi H, Handa JI, Konno SI. Abdominal oblique muscle injury at its junction with the thoracolumbar fascia in a high school baseball player presenting with unilateral low back pain. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202004; 67(1):49-52.

Watanabe M, Ohto H, Tormey CA, Yasuda H, Takano N, Minakawa K, Ono S, Yamada-Abe M, Suzuki H, Sugawara A, Kawabata K, Nollet KE, Ikeda K. Immunogenicity of red cell alloantigens in the Japanese population. *International Journal of Blood Transfusion and Immunohematology*. 2020; 10:100053Z02MW2020.

Yabuki S, Takatsuki K, Otani K, Nikaido T, Watanabe K, Kato K, Kobayashi H, Handa JI, Konno S. Headache in Patients with Cervical Spondylotic Myelopathy. *Pain Research & Management*. 202009; 2020:8856088.

Kobayashi K, Kaneuchi Y, Hakozaki M, Otani K, Konno S. Magnetic resonance imaging findings in the hyperacute phase of atypical femoral fracture: a case description. *Quantitative Imaging in Medicine and Surgery*. 202012; 10(12):2366-2369.

Kawashima M, Murakami M, Saito T, Oyama I, Tauchi M, Oikawa K, Sekine M, Sekine T, Ozawa N, Saito Y, Yamaji H, Yagiuchi Y, Kumagai A, Otani K. Lessons from and perspectives for healthcare student volunteer activities after the Fukushima disaster. *Radioprotection*. 202012; 55(4):271-276.

Inose H, Kato T, Ichimura S, Nakamura H, Hoshino M, Togawa D, Hirano T, Tokuhashi Y, Ohba T, Haro H, Tsuji T, Sato K, Sasao Y, Takahata M, Otani K, Momoshima S, Yuasa M, Hirai T, Yoshii T, Okawa A. Risk Factors of Nonunion After Acute Osteoporotic Vertebral Fractures: A Prospective Multicenter Cohort Study. *Spine*. 202007; 45(13):895-902.

大瀧遥, 大谷晃司, 関口美穂, 紺野慎一. MRIによる頸椎椎間板変性の評価 腰椎と頸椎の分類法の比較. *Journal of Spine Research*. 202006; 11(6):890-896.

諸井陽子, 小林元, 菅原亜紀子, 石川和信. モラルハザード事例調査に基づく医療系学生と医療人のためのソーシャルメディア利用チェックリストの開発. *医学教育*. 202008; 51(4):401-404.

川井巧. 一総合医が実践したこと 大原総合病院での1人からの総合診療科立ち上げ. *ジェネラリスト教育コンソーシアム*. 202007; 14:203-206.

辻由依, 青木俊太郎, 坂野雄二. 薬物使用者の家族の認知を測定する尺度の作成. *日本アルコール・薬物医学会雑誌*. 202002; 55(1):25-38.

庄司文仁, 堀内聡, 青木俊太郎, 高垣耕企. 抑うつスキーマと閾値下うつの関連に対する否定的な自動思考の媒介効果. *認知療法研究*. 202008; 13(2):182-189.

諸井陽子, 色摩(亀岡)弥生, 大谷晃司. 福島県立医科大学スキルラボ・きぼう棟の開設とアウトカム基盤型教育への貢献. *福島医学雑誌*. 202012; 70(3):195-201.

【総説等】

青木俊太郎, 大谷晃司, 矢部博興. 【高齢者慢性疼痛治療の現状と課題】高齢者の慢性疼痛に対する心理療法. *Progress in Medicine*. 202008; 40(8):845-849.

大谷晃司. 専門医試験をめざす症例問題トレーニング 脊椎・脊髄疾患. 整形外科. 202005; 71(5):470-473.

大谷晃司. 【脊椎脊髄疾患に対する分類・評価法】(第3章) 腰椎 神経性間欠跛行の分類. 脊椎脊髄ジャーナル. 202004; 33(4):340-341.

大谷晃司. 腰痛診療ガイドライン2019(改定第2版)のポイント. 日本薬剤師会雑誌. 202009; 72(9):951-957.

坂本信雄, 唐尊一, 木村隆, 濱口杉大, 橋本優子, 色摩(亀岡)弥生, 大谷晃司. 福島県立医科大学における臨床実習改革に向けた多面的アプローチ. 福島医学雑誌. 202004; 70(1):41-61.

青木俊太郎. 痛みに対する行動活性化. ペインクリニック. 202009; 41(9):1162-1169.

岩崎稔, 会田記章, 北原エリ子, 藤原俊之, 村上安壽子, 本谷亮, 青木俊太郎, 笠原諭, 高橋直人, 松平浩, 井関雅子, 丹羽真一, 矢吹省司. 行動科学的アプローチ統合リハビリテーションツール「E-ABA」の紹介. ペインクリニック. 202009; 41(9):1181-1192.

〔その他〕

大谷晃司. ぎっくり腰の原因を探る. 月刊ゴルフダイジェスト. 202007; 2020(7):48-49.

石川和信, 諸井陽子. 医療系学生・医療専門職がSNS関連のトラブルに陥らないために. 週刊医学界新聞. 20201207; (3399):3.

小林洋, 大谷晃司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 半田隼一, 矢吹省司, 紺野慎一. 重度骨粗鬆症例に対する脊椎固定術の工夫 骨粗鬆症性椎体骨折偽関節に対する手術療法 平成における当科の治療法変遷. 東北整形災害外科学会雑誌. 202006; 63(1):82.

石川圭佑, 半田隼一, 笹島功一, 相澤利武, 二階堂琢也, 渡邊和之, 大谷晃司. 腰部脊柱管狭窄症における認知症が術後疼痛と機能に与える影響について. 東北整形災害外科学会雑誌. 202006; 63(1):127.

著書・訳書

大谷晃司. 脊椎手術後腰痛. In: 牛田享宏, 福井聖, 川崎元敬. 慢性疼痛ケースカンファレンス. 東京: メジカルビュー社; 202004. p.197-204.

錦織宏, 三好沙耶佳. 指導医のための医学教育学: 実践と科学の往復. 京都: 京都大学学術出版会; 202008.

研究発表等

〔研究発表〕

Naruse M, Aoki S, Inoue T. Relationship between rumination, emotion regulation and trait-anxiety in healthy volunteers. ABCT 2020 54th Annual Convention; 202011; Web.

Sasae R, Ii M, Hara C, Stanyon M, Kassai R. Decision making under uncertainty: Results from a multisector think tank exploring how to make a difference in Japan. WONCA Europe; 20201216-19; Web.

小林賢司, 渡邊和之, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 大谷晃司, 矢吹省司, 紺野慎一. 腰椎椎間板ヘルニアに対するコンドリラーゼの使用経験. 第30回東北脊椎外科研究会; 20200125; 仙台. 東北整形災害外科学会雑誌. 63(1):165.

小林洋, 関口美穂, 米本孝二, 角間辰之, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 半田隼一, 大谷晃司, 矢吹省司, 紺野慎一. 福島医大における脊椎脊髄外科の臨床研究への取り組み 腰部脊柱管狭窄診断サポートツール全国多施設研究 (DISTO project) . 第30回東北脊椎外科研究会; 20200125; 仙台. 東北整形災害外科学会雑誌. 63(1):172.

佐藤俊樹, 大谷晃司, 半田隼一, 小林洋, 加藤欽志, 渡邊和之, 二階堂琢也, 矢吹省司, 紺野慎一. 高齢で発症した Clay-shoveler's fracture の1例. 第30回東北脊椎外科研究会; 20200125; 仙台. 東北整形災害外科学会雑誌. 63(1):176-177.

半田隼一, 大谷晃司, 小林洋, 加藤欽志, 渡邊和之, 二階堂琢也, 矢吹省司, 紺野慎一. 頸椎後方固定術中の椎骨動脈損傷により, 巨大な仮性動脈瘤を形成した1例. 第30回東北脊椎外科研究会; 20200125; 仙台. 東北整形災害外科学会雑誌. 63(1):177.

小林良浩, 渡邊和之, 富永亮司, 大谷晃司, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 紺野慎一. 難治性・多発性化膿性脊椎炎に対する長範囲後方固定-1例報告-. 第30回東北脊椎外科研究会; 20200125; 仙台. 東北整形災害外科学会雑誌. 63(1):178.

半田隼一, 大谷晃司, 小林洋, 加藤欽志, 渡邊和之, 二階堂琢也, 矢吹省司, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄における神経障害形式が QOL に与える影響. 第93回日本整形外科学会学術総会; 20200611-0831; Web. 日本整形外科学会雑誌. 94(2):S121.

伏見友希, 大谷晃司, 中村正隆, 関口美穂, 紺野慎一. MRI 横断像を用いた腰椎所見の判定評価 評価別の検者内/検者間信頼性の検討-. 第93回日本整形外科学会学術総会; 20200611-0831; Web. 日本整形外科学会雑誌. 94(2):S184.

小林孝臣, 森本忠嗣, 小野玲, 大谷晃司, 馬渡正明. ロコモ 25 と運動機能テストの関係 地域在住住民 2551 名での検討. 第93回日本整形外科学会学術総会; 20200611-0831; Web. 日本整形外科学会雑誌. 94(2):S207.

大谷晃司, 紺野慎一, 関口美穂, 小野玲. 運動器加齢性疾患の予防法と治療法の開発に向けた統合的アプローチ ロコモティブシンドロームと認知機能との関係. 第93回日本整形外科学会学術総会; 20200611-0831; Web. 日本整形外科学会雑誌. 94(2):S485.

大谷晃司, 菊地臣一, 矢吹省司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄症に対する身体所見の意義 一般住民における 10 年経過観察. 第93回日本整形外科学会学術総会;

20200611-0831; Web. 日本整形外科学会雑誌. 94(3):S1128.

渡邊和之, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 大谷晃司, 矢吹省司, 菊地臣一, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄の無症候性狭窄は症候性狭窄となるか 術後 10 年経過例での検討. 第 93 回日本整形外科学会学術総会; 20200611-0831; Web. 日本整形外科学会雑誌. 94(3):S1222.

Nakamura M, Otani K, Sekiguchi M, Konno S. 運動による腰痛患者における傍脊柱筋での脂肪浸潤率の意義 (The significance of the fat infiltration rate of paraspinal muscles in exercise-induced low back pain) . 第 117 回東北整形災害外科学会; 20200626-27; 山形. 東北整形災害外科学会雑誌. 64(1):129.

青木俊太郎, 竹林由武, 色摩弥生, 大谷晃司. コミュニケーション講義が医学生のコミュニケーションを行う自信に与える影響. 第 52 回日本医学教育学会大会; 202007; 鹿児島. 医学教育. 51(Suppl.):114.

安田恵, 色摩弥生, 坂本信雄, 青木俊太郎, 末永博紀, 安井清孝, 諸井陽子, 唐尊一, マハム・スタンヨン, 大谷晃司. 地域体験実習を通して醸成されるプロフェッショナリズムに関する検討. 第 52 回日本医学教育学会大会; 202007; 鹿児島. 医学教育. 51(Suppl.):139.

諸井陽子, 色摩弥生, 坂本信雄, 安田恵, 安井清孝, 青木俊太郎, 末永博紀, 唐尊一, Maham Stanyon, 大谷晃司. タOUCHールを用いた身体診察模擬患者へのムラージュ. 第 52 回日本医学教育学会大会; 202007; 鹿児島. 医学教育. 51(Suppl.):189.

唐尊一, 坂本信雄, 色摩弥生, 諸井陽子, 安井清孝, 青木俊太郎, 末永博紀, 安田恵, Maham Stanyon, 大谷晃司. Moodle を活用した臨床実習の双方向性評価システムの構築. 第 52 回日本医学教育学会大会; 202007; 鹿児島. 医学教育. 51(Suppl.):203.

会田記章, 北原エリ子, 村上安壽子, 笠原諭, 本谷亮, 岩崎稔, 青木俊太郎, 丹羽真一, 井関雅子, 藤原俊之. 行動科学的アプローチ統合ツールの『E-ABA』を運動療法に活用した、慢性疼痛の一症例. 第 49 回日本慢性疼痛学会; 202008; Web.

笠原諭, 岩崎稔, 会田記章, 北原エリ子, 村上安壽子, 本谷亮, 青木俊太郎, 井関雅子, 藤原俊之. 行動科学的アプローチ統合ツール『E-ABA』の開発—その理論と使用例の紹介—. 第 49 回日本慢性疼痛学会; 202008; Web.

辻由依, 青木俊太郎, 坂野雄二. 薬物使用者の逮捕・服役・保護観察経験の有無と家族のストレス・ストレス知覚, ストレス反応に焦点を当てた検討—. 日本認知・行動療法学会第 46 回大会; 202009; Web.

戸田亘, 松本純弥, 石井士朗, 板垣俊太郎, 大谷晃司, 青木俊太郎, 三浦至, 志賀哲也, 松本貴智, 菅原茂耕, 山國遼, 箱崎元晴, 渡邊宏剛, 矢吹省司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林洋, 伊藤浩, 紺野慎一, 矢部博興. 高齢の身体表現性障害患者における脳血流の変化. 第 116 回日本精神神経学会学術総会; 202009; Web. 精神神経学雑誌. 2020(特別):S298.

横倉俊也, 青木俊太郎, 戸田亘, 松本純弥, 大谷晃司, 本谷亮, 上田由桂, 大西真央, 志賀可奈子, 川嶋彩花, 板垣俊太郎, 三浦至, 矢部博興. 気分障害が併存する慢性疼痛患者に対する集団行動活性化療法の試み. 第 116 回日本精神神経学会学術総会; 202009; Web. 精神神経学雑誌. 2020(特別):S571.

河野創一, 菅野和子, 青木俊太郎, 藤原達雄, 阿部和道, 高橋敦史, 一條靖洋, 義久精臣, 三浦至, 矢部博興. NIRS の臨床応用の実際. 第 116 回日本精神神経学会学術総会; 20200928; 仙台.

二階堂琢也, 関口美穂, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 大谷晃司, 矢吹省司, 紺野慎一. 脊椎疾患における神経障害性疼痛の診断と特徴. 第 69 回日本整形災害外科学会; 202009; Web. 東日本整形災害外科学会雑誌. 32(3):307.

二階堂琢也, 矢吹省司, 大谷晃司, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 紺野慎一. 運動器難治性疼痛に対する多職種連携の現状と課題. 第 69 回日本整形災害外科学会; 202009; Web. 東日本整形災害外科学会雑誌. 32(3):311.

渡邊剛広, 大谷晃司, 関口美穂, 紺野慎一. 腰痛および腰痛特異的機能障害と MRI 画像におけるシミュール結節との関係. 第 69 回日本整形災害外科学会; 202009; Web. 東日本整形災害外科学会雑誌. 32(3):425.

二階堂琢也, 矢吹省司, 大谷晃司, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 紺野慎一. 慢性腰痛に対するリエゾンアプローチ. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 202009; 神戸. Journal of Spine Research. 11(3):74.

大瀧遥, 大谷晃司, 関口美穂, 紺野慎一. 頸椎椎間板変性の MRI による評価と疼痛の関連の検討. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 202009; 神戸. Journal of Spine Research. 11(3):127.

大谷晃司, 菊地臣一, 矢吹省司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 紺野慎一. 下肢深部反射に影響を与える因子の検討 南会津スタディより. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 202009; 神戸. Journal of Spine Research. 11(3):172.

渡邊剛広, 大谷晃司, 大瀧遥, 関口美穂, 紺野慎一. 腰椎 MRI における腰椎椎間板変性と腰痛との関係 南会津スタディより. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 202009; 神戸. Journal of Spine Research. 11(3):173.

加藤欽志, 大歳憲一, 矢吹省司, 大谷晃司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 小林洋, 半田隼一, 紺野慎一. 野球選手の腰痛に対する病態評価 診断的ブロックを用いた疼痛分析. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 202009; 神戸. Journal of Spine Research. 11(3):268.

渡邊和之, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 大谷晃司, 矢吹省司, 菊地臣一, 紺野慎一. 腰椎変性すべりを伴う腰部脊柱管狭窄に対する除圧術の長期成績 術後 10 年での検討. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 202009; 神戸. Journal of Spine Research. 11(3):461.

小林洋, 大谷晃司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 半田隼一, 矢吹省司, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄術後における、術後経過の基準値 JOABPEQ による患者立脚型評価と足 10 秒テストによる定量的評価を用いた 5 年フォローアップによる検討. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 202009; 神戸. Journal of Spine Research. 11(3):465.

大谷晃司, 菊地臣一, 紺野慎一. 性の違いが腰部脊柱管狭窄症状を有する地域在住住民の QOL に与える影響 南会津スタディより. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 202009; 神戸. Journal of Spine Research. 11(3):511.

太田昌博, 金山雅弘, 大谷晃司, 大羽文博, 田中将, 辻本武尊, 吉川慶, 百貫亮太, 長谷川裕一, 橋本友幸, 紺野慎一, 岩崎倫政. 腰椎制動術の長期生存率 最長 28 年までの後ろ向き調査. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 202009; 神戸. Journal of Spine Research. 11(3):623.

中村正隆, 大谷晃司, 関口美穂, 紺野慎一. 傍脊柱筋の退行性変化と脊椎圧迫骨折、腰痛性間欠跛行との関係. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 202009; 神戸. Journal of Spine Research. 11(3):632.

渡邊和之, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 大谷晃司, 矢吹省司, 菊地臣一, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄に対する除圧術の適応の限界 術後 5 年での検討. 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 202009; 神戸. Journal of Spine Research. 11(3):673.

中村正隆, 大谷晃司, 関口美穂, 紺野慎一. 腰痛性間欠跛行における傍脊柱筋の脂肪浸潤割合の意義. 第 35 回日本整形外科学会基礎学術集会; 202010; Web. 日本整形外科学会雑誌. 94(8):S1663.

菊地潤, 庄司文仁, 青木俊太郎, 堀内聡. 大学生とうつ病患者の抑うつスキーマと生活機能の関連の検討. 第 20 回日本認知療法・認知行動療法学会; 202011; Web.

渡邊剛広, 大谷晃司, 関口美穂, 紺野慎一. 腰椎 MRI における腰椎椎間板変性と腰痛. 第 13 回日本運動器疼痛学会; 202011; Web. Journal of Musculoskeletal Pain Research. 12(4):S95.

小林洋, 大谷晃司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 半田隼一, 矢吹省司, 紺野慎一. 足 10 秒テストを用いた、腰仙椎部疾患における下肢運動機能の定量評価—第 3 報 : 回復不良の例—. 第 28 回日本腰痛学会; 20201030-1129; Web.

中村正隆, 大谷晃司, 関口美穂, 紺野慎一. 腰椎性間欠跛行と楔状型椎体骨折の関係性に対する検討. 第 28 回日本腰痛学会; 20201030-1129; Web.

二階堂琢也, 矢吹省司, 大谷晃司, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 紺野慎一. 心因性 (非器質性) 腰痛の診断と治療—生物心理社会モデルに基づいたリエゾンアプローチ—. 第 28 回日本腰痛学会; 20201030-1129; Web.

伏見友希, 大谷晃司, 中村正隆, 関口美穂, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄の臨床症状と腰椎 MRI 横断図との関係. 第 28 回日本腰痛学会; 20201030-1129; Web.

渡邊和之, 大谷晃司, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林洋, 半田隼一, 矢吹省司, 菊地臣一, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄に対する除圧範囲の選択—神経学的所見により手術範囲を縮小できるか—. 第 28 回日本腰痛学会; 20201030-1129; Web.

渡邊剛広, 大谷晃司, 大瀧遥, 関口美穂, 紺野慎一. 腰痛および腰痛関連 QOL と MR 画像所見との関係. 第 28 回日本腰痛学会; 20201030-1129; Web.

諸井陽子, 色摩弥生, 坂本信雄, 安田恵, 安井清孝, 青木俊太郎, 末永博紀, 唐尊一, Maham Stanyon, 大谷晃司. 身体診察模擬患者に貼付する傷跡シールの作成と活用の試み. 第 16 回東北シミュレーション医学教育研究会; 20201219; Web(仙台). プログラム・抄録集. 8.

〔シンポジウム〕

大谷晃司, 紺野慎一, 関口美穂, 小野玲. ロコモティブシンドロームと認知機能との関係. 第93回日本整形外科学会学術総会 (オンライン学術総会); 20200611-0831; Web.

〔特別講演〕

亀岡 (色摩) 弥生. 医学教育の工夫について ~アクティブラーニング~. 令和2年度 一般社団法人福島県医療福祉関連教育施設協議会 教育研修会. 20201226; Web.

看護師特定行為研修センター

論 文

〔原 著〕

Sato N, Kimura T, Kenjo A, Kofunato Y, Okada R, Ishigame T, Shimura T, Marubashi S. Early Intra-abdominal Infection following Pancreaticoduodenectomy: Risk Factors and Clinical Impact on Surgical Outcome. Fukushima Journal of Medical Science. 202012; 66(3):124-132.

見城明, 丸橋繁, 遠藤俊吾, 鈴木弘行. 外科医にとっての働き方改革とは 外科医の働き方改革 特定行為研修修了者の活用に向けた課題と対応策. 日本外科学会雑誌. 202001; 121(1):102-104.

岡田良, 小船戸康英, 石亀輝英, 木村隆, 見城明, 丸橋繁. 完全腹腔鏡下に切除した尾状葉肝血管腫 (径10cm) の1例. 日本臨床外科学会雑誌. 202003; 81(3):542-547.

研究発表等

〔研究発表〕

齋藤孝光, 菅野有紀子, 黒田聖仁, 村上舞, 児島裕紀, 紺野直紀, 児玉健太, 寺島久美子, 宮田昌之, 小船戸康英, 見城明, 丸橋繁. 肝細胞癌との鑑別を要した肝血管筋脂肪腫の一例. 日本消化器病学会東北支部第208回例会; 20200131-0201; 仙台.

大関篤, 小船戸康英, 塩功貴, 西間木淳, 鈴木野聖子, 武藤亮, 石亀輝英, 岡田良, 木村隆, 見城明, 志村龍男, 丸橋繁. 膵管内進展を伴う膵神経内分泌癌の治療経験. 第120回日本外科学会定期学術集会; 20200813-15; Web.